

人道危機緊急募金 2014年、ユニセフはシリアとその周辺、中央アフリカ共和国、南スーダンをもっと支援の必要度が高い人道危機として、支援活動を実施しています。

緊急事態下で最も厳しい状況に置かれるのは、常に子どもたちです。暴力や搾取、病気、養育放棄といったリスクが高くなり、武力紛争であれば、命を失う危険も伴います。ユニセフは、武力紛争のために、住み慣れた土地を離れて避難を余儀なくされたり、親や友人を失ったり暴力を受けるなどして心に深い傷を負った子どもや女性のために、緊急・復興支援活動を行っています。



■中央アフリカ共和国
2012年12月、宗教勢力の対立の形で始まった今回の紛争。長期化するにつれ、統制が取れなくなった武装勢力や武装した民兵が、国内各地で暴力行為を繰り返しています。身一つで森に隠れたり、教会、学校、キャンプに身を寄せている住民の方たち。武装勢力に

引き込まれ、戦闘に参加させられたり、家族とはぐれている子どもたちもいます。国民460万人のうち、国内で避難している人は70万人。周辺国への難民の流入も続いています。



■南スーダン
世界で最も若い国・南スーダンでは、2013年12月に武力衝突が発生。2014年1月に停戦合意が締結されたものの、予断を許さない状況が続いています。国内外で避難生活を送る人は90万人以上。各地の国連施設には、安全を求める住民が避難しています。一方で、緊迫した情勢から到達できず、支援が届かない地域も多くあります。独立という夢を果たしてわずか2年あまり。新しい国とともに育つ子どもたちには悪夢のような状況が続いていま

■シリア緊急募金・命の危険と不安の中の日々

シリア国内では、病院や水処理施設など命を支えるインフラが破壊され、汚れた水による下痢性疾患やはしか・ポリオなどの感染症が子どもたちを襲っています。また、480万人いる学齢児のうち330万人が学校に行けなくなり、暴力や危険にさらされるなどして将来への希望を奪われています。

550万人 今すぐ支援の必要な子どもたち	330万人 学ぶチャンスを奪われ未来を閉ざされる子どもたち	10万人以上 シリアの紛争でこれまでに失われた命
--------------------------------	---	------------------------------------

ユニセフ平和チャリティーコンサート



岩手県ユニセフ協会花巻友の会は世界の子どもたちの命と健康を守る活動を進めるため、1989年に設立し今年25周年を迎えました。ユニセフ活動の輪をさらに広げるため、「ユニセフ平和チャリティーコンサート」を開催します。

岩手県ユニセフ協会花巻友の会設立25周年記念ユニセフ平和チャリティーコンサート

- 日 時… **7月27日(日)** 13:30~16:00
- 会 場…花巻市文化会館 大ホール (花巻市若葉町3-16-22 電話0198-24-6511)
- 出 演…コーラス四つ葉 / 響流はなまき 花巻農業高校鹿踊り 特別出演 不来方高等学校・音楽部
- 協賛金(参加費)…500円

ユニセフカード&ギフト ユニセフ・カードとギフト春・夏号2014



グリーンディングカードやはがき、エコバッグ、貯金箱など種類も豊富です。カタログご希望の方は事務局まで。ユニセフの素敵なグリーンディングカードやはがき、お洒落なファッション雑貨、可愛い子ども用品がいっぱい！ユニセフ製品は、製品代金の約50%がユニセフ活動資金として世界の子どもたちのために役立てられます。事務局でも取り扱っています。

イベント会場でのカード頒布予定

- 6月22日奥州市Zホール 母親大会会場
- 7月27日花巻市民文化会館 ユニセフ・チャリティーコンサート



▲2013ワンワールドフェスタ会場

ユニセフのつどい 2014

「子どもたちにしあわせな未来を！」

2014年は国連で子どもの権利条約が採択されて25周年、日本政府が批准して20周年を迎えます。東日本大震災を経験する中で、子どもの権利条約について学び、子どもの人権を守るために何をしなければならぬか、みんなで考えていきましょう。また、「3.11忘れない」現地のお話を聞き、子どもたちにやさしい復興をめざしていきましょう。

- 日 時…2014年9月27日(土) 13:30~15:00
- 会 場…盛岡市 水産会館
- 内 容…①「子どもにやさしい復興」 森田明彦氏(尚絅学院大学総合人間科学部現代社会学科教授)
- ②「3.11私たちは忘れない！」被災地のお話を聞く

賛助会員として世界の子どもたちを応援してください

ユニセフ日本委員会として、日本国内での募金活動、広報およびアドボカシー(政策提言)活動を担う日本ユニセフ協会を、年会費によってご支援いただく方法です。会員登録をいただき、日本ユニセフ協会の機関誌やさまざまなユニセフの資料を通して、世界の子どもたちのおかれている状況について理解を深めてみませんか。国内で行われるユニセフ協力活動の情報を人手し、さまざまなイベントにご参加ください。

賛助会員の種類・会費・会員期間

種類	対象	賛助会員	賛助会費	賛助会員期間
①一般賛助会員	個人の方	1口	5,000円	入会月~1年間
②学生賛助会員	18歳以上の学生の方	1口	2,000円	入会月~1年間
③団体賛助会員	団体、法人、企業	1口	100,000円	毎年4月~翌年3月までの1年間

あとがき
●ユニセフ緊急・復興支援活動3年レポートが発行された。あつという間に過ぎた日々、しかし子どもたちの三年間は、大きな変化と成長そして次へのステップになっている。先日大槌町の大槌臨学舎(NPOカタリハ)放課後の学校を訪問した時、「悲しみは 君を強くする」という詩を拝見した。被災地の子どもたちは大きく羽ばたいているのだと。
●国連で子どもの権利条約が採択されて25周年、世界では子どもの人権が侵害されていることが数多く発生している。ナイジェリアの女子生徒の拉致、紛争で命の危機にさらされている子どもたち、栄養不良・予防接種・教育など支援を待っている子どもたちに心を寄せていきたい。(事務局)



Iwate Association for UNICEF

2014年6月
【発行】
岩手県ユニセフ協会
(旧 日本ユニセフ協会岩手県支部)
〒020-0690
岩手県滝沢市土沢220-3 いわて生協本部2F
TEL 019-687-4460 FAX 019-687-4491
e-mail: sn.iunicef_iwate@todock.jp
ホームページ http://www.unicef-iwate.jp/



僕たちには未来も希望も!
「小3の時、何が起きているか火災もおき現実を見きれなかった。大槌は自然がたくさんあり、きれいな環境を残して前よりもっといい町づくりを期待している。僕たちには未来も希望もある。明るく前向きに大人の人たちもなれるように」と、震災でお父さん・祖父母を亡くした陽音(はると)くんの発言に会場は胸をうたれました。
▲大槌小学校佐々木陽音くんが発言

小中一貫校「おおつち学園」2016年度開校予定

設計者 佐々木 栄 氏(昭和設計) 昭和・久慈設計共同企業体

ワークショップに参加した、当時の5年生たちが卒業するまでに、新しい校舎に少しでも過ごして自分たちの提案が実際に形になった学校をみて、感じていただけるように 願っています。

これからの大槌町を担う子どもたちの思いが、学校という建物に実現する ということは子どもたちの ふるさとへの愛情につながる と思います。そのことこそが重要だと思います。

小中一貫校「おおつち学園」2016年度開校予定

設計者 佐々木 栄 氏(昭和設計) 昭和・久慈設計共同企業体

子どもたちのアイデア例

- 教室に樹木
- 休憩・昼食スペース
- 教室内トイレ(避難生活)
- 寝転んで読書
- 広いペランタ(実験・工作)
- 備蓄倉庫

東日本大震災支援活動 子どもにやさしい復興をめざして ~未来をつくる私がおとなに伝えたいこと~

日本ユニセフ協会は、東日本大震災緊急・復興支援活動「子どもにやさしい復興計画」事業を岩手県・宮城県・福島県で、自治体や地域の方々と一緒にすすめてきました。2014年3月27日、ユニセフシンポジウムが東京ユニセフハウスで開催され、復興支援のプログラムに参加した子どもたちが、学校を舞台に震災の教訓や地域の復興・未来、そして将来の「万が一」に備えることを子どもたち自身が学び、考え、地域社会にそれぞれ異なる形で提案していることを発表しました。参加した子どもたちは、岩手県大槌町立大槌小学校6年生4人、宮城県仙台市立七郷小学校6年生4人、福島県相馬市立大野小学校6年生4人です。子どもと築く復興まちづくりは、山形大学佐藤慎也教授と竹中工務店、メンタルケアや遊び場づくりの専門家からもアドバイスをいただきながらすすめてきたものです。

- 岩手県大槌小学校「未来の教室を考えよう」大槌町の4つの小学5年生90人によるワークショップ、こんな教室あったらいいな。
- 宮城県七郷小学校「未来の七郷まちづくり」ユニバーサルデザイン・自然・環境にやさしい、防災安全から考えた未来の七郷のまちを模型にして提案。
- 福島県大野小学校「ふるさと相馬子ども復興会議」日本生活協同組合連合会も支援。相馬の特色や現状を見つめ、相馬を盛り上げるために商品開発や体制づくり。

シンポジウムでは鋭い意見が...

3県の子供たちから2人ずつ登壇し、山形大学佐藤慎也先生が進行、コメンテーターとして日本プレイセラピー協会本田涼子さん、日本冒険遊び場づくり協会天野秀昭さんも参加しました。

大震災を経験して思ったこと伝えたいことがいっぱいある。

- ☆家族と話していると気持ちが落ち着く
- ☆友達といると楽しい
- ☆人々のつながり助け合いが大事、交流をいっぱい作ること
- ☆姉妹都市を遠く離れたところとつくることもいい
- ☆震災を忘れないで協力しあえば乗り越えられる
- ☆世界中からも支援してもらったので、恩返しをしていきたい
- ☆子どもの心は小さく傷つきやすいので、小さな変化にも気づいてほしい
- ☆冷静に自分の命を守る
- ☆自分より大変な思いをした人が多いので自分を抑えようしている
- ☆相馬は大丈夫だよと伝えたい

など、子どもたちの切々として発言は、胸を打たれ涙を押さえる人も...

シンポジウムの最後に、講評とまとめとして「子どもたちの取り組みは、まさに、ユニセフが防災への取り組みのキーワードとしている「子どもと一緒に防災」を体現化した実例である」とユニセフ東アジア太平洋地域事務所・緊急支援専門官根本巳哉さんは話され、2015年3月仙台市で開催される第3回国連防災世界会議に「子ども参画」を働きかけたいとお話されました。



▲未来の教室づくりワークショップを発表する大槌小学校代表

こんな教室あったらいいな!!

東日本大震災支援 **CAPプログラム** 被災3県の交流



CAP(キャップ)とは

Child Assault Prevention(子どもへの暴力防止)の意味で、子どもたちがいじめ、痴漢、誘拐、虐待、性暴力などのさまざまな暴力から自分を守るための人権教育プログラムです。J-CAPTAとユニセフは子どもたちの生きる力をささえる被災支援プロジェクトを実施してきました。

2014年4月20日、3県の活動をふりかえり4年目の実施に向けて交流しました。CAPスペシャリストとして山田町にCAPリアスが誕生し、子どもたちに、おとなにワークショップが届けられそうです。

大槌保育園・幼稚園はいま

4月9日、東日本大震災支援スタッフは保育園・幼稚園を訪問しました。きりぎり保育園・みどり幼稚園は新園舎の建築中、おさなご幼稚園では園児数の減少がすすんでいるとのこと。子どもたちはみんな元気です。秋にまたみんなで球根植えに大槌にいこう。



▲みどり幼稚園

おさなご幼稚園箱石幸子理事長・園長先生が、現在の心境をお話してくれました。

2011.3.11、その日津波は床暖のため掘り下げていた部分に流れ込み、床暖の機械はだめになり、水は園舎1階の天井近くまできたものの、園舎は流されず残った。

「震災時、園内にいた者は全員山に避難して無事でしたが、地震後、保護者が迎えに来て帰った園児が一人亡くなったのです・・・。」

「おばあさんと、おかあさんが迎えにきて帰った園児が一人犠牲になった。その園児の父親も卒園生で、ひとり残されたその父親に申し訳なくて・・・。」未曾有の大災害は人の心にも傷を残した。

また、園長先生はその後の支援についても語って下さった。

「全国の方々から、いろいろな支援をいただきとてもありがたいと思います。子どもたちも、感謝の気持ちを持って受けてくれることを望んでいます。震災の年のクリスマス、いろいろなところからプレゼントがたくさん届き、一人で8つも9つももらう、という事態になりました。通常ではありえないことで、子どもたちがこれをあたり前のことだと思わないかと、心配しています。」

震災前、100人近くいた園児も今は半数に減った。特に小さい子どものいる家庭で、大槌を離れる人が多いそうだ。津波の心配がない遠野に引っ越した人も多い。

犠牲者の中には高齢者も多い。昭和8年三陸大津波の年に生まれたという園長先生は、同世代の友人を多く亡くしたと言う。「どうして、逃げなかったんでしょう。親たちから三陸大津波のことは、聞かされていたはずなのに。昭和8年の時は夜中で、犠牲者も多かったと聞きます。今回は日中だったのに。防潮林もあるし、防波堤もあるし、と安心していただけですかねえ。寂しくなりました。」

「ここが、幼稚園で良かったです。子どもたちには、未来があります。希望があります。子どもたちと共に過ごしていると、がんばらなきゃ、という気力がわいてくるんです。」そう言って笑った園長先生の笑顔は、とても素敵だった。

文責 遠山あゆ子



▲きりぎり保育園の仮園舎の後方に新園舎建築中



▲おさなご幼稚園左側箱石園長さん

冒険遊び場

震災から三年、今も子どもたちの遊び場が足りず、日本冒険遊び場づくり協会と提携し、公園などの施設ではなく「子どもが遊ぶ遊び場」=プレーパークや、子どもが遊びをつくる道具を載せた「プレーカー」の出前活動をしています。



▲遊び道具をいっぱい積んでプレーカーがやってきます



▲里山まるごとプレーパークの現地視察

ユニセフ写真・パネル展

『アフリカに必要なもの』アグネス・チャン大使が見たナイジェリア

2月28日～3月2日 プラザおでっ...入場者230名
3月5日～8日 花巻市 妙円寺...入場者100名

アグネス・チャン日本ユニセフ協会大使は、2013年4月にナイジェリア商都ラゴスに広がる格差の問題とユニセフなどの取り組みを報告。豊富な石油資源を背景とする目覚ましい経済成長の影で深刻化する格差問題に直面する子どもたちの様子とともに、そうした現状を変えようとするユニセフの新たな取り組みを紹介する「アフリカに必要なもの」ユニセフ写真パネル展を開催しました。

参加した方から「平均寿命が50歳と日本の江戸時代と変わらないことに驚きました。先ず学校と病院が必要と思いました」「女性の目から見た映像は「愛」を感じます」「世界の人々は何をどう行動すればいいのでしょうか」「係りのみなさんの行動はとても素敵でした」などなど・・・

3月2日、めんこいチャリティイベントに参加していた宮古二中の生徒・先生にも写真展とユニセフ支援グッズを見て、体験をしていただきました。初めて「書き損じハガキ、外国コイン、古切手」の呼びかけをしたところ、わざわざ届けてくださった方も多くいました。



総合病院の健診会場では、携帯ネットワークを備えた出生登録も、ユニセフが開発したシステムは、アフリカ各地で、最も支援が必要とされている子どもたちを「見える」存在に。



マニラのユニセフの事務所には、被災した子どもたちの写真が貼られていた。今にも涙れそうなおもてなしに添った笑顔のこのお母さん「お母さん」。



■2014年4月、ナイジェリア・女子生徒の拉致発生しました

2014年4月8日、ボルノ州のチボックの学校から、200人以上の女子生徒が拉致され、5月には新たに8人の女子生徒が誘拐されたとの報告。

ユニセフは、拉致した者たちに女子生徒を直ちに解放し、危害を加えずにコミュニティに戻るようすること、拉致した者たちに影響を及ぼせる人々は女子生徒が安全に帰還できるよう、あらゆる手を尽くすこと、拉致した者は法の裁きを受けることを要請。

■ユニセフの見解と要請

子どもたちに対するこのような残虐な暴力行為は決して許されるものではない。学校への襲撃は、安全な環境で学ぶという子どもたちの権利を侵害するものであり、子どもの未来を奪うことでもある。

世界中どこであれ、子どもの拉致は国際法において、犯罪であり、不法行為である。ユニセフは、ナイジェリア政府に対し、子どもたちが危害を加えられずに家族の元に戻り、安全な環境下で学習を続けられるよう、あらゆる対応をとることを要請。

ユニセフ出前講座

◆ボーイスカウト盛岡第5団 出前講座

2014年3月16日、世界の子どもたちは、どんなくらしをしているのでしょうか。また、ユニセフってなあに?を学ぶユニセフ講座が、盛岡中央公民館で30名の参加で開催されました。

子どもたちは、「食糧分配ゲーム」や「水くみ体験」をし、食べ物の少ない国、きれいな水がない国など大変なくらしをしている子どもたちがいることを知りました。

また、「お家のお手伝い」してもらったおこずかいを持ち寄って、子どもたちに届けようとユニセフ募金の贈呈も行われました。



▲水くみ体験



◆岩手大学

2014年1月23日、岩手大学教育学部社会科学教育科「人権と教育」の一環として子どもの権利条約を学ぶユニセフ講座を開催しました。参加した学生15名は、ユニセフの活動や世界の子どもの状況のDVDを鑑賞。ワークショップでは日常の親子の会話から、「守られている権利、守られていない権利」について考え、「子どもの権利条約」の40条のカードからもっとも大切にしたいカード8枚を選び出し、次に生きるために欠かせないカード4枚にしぼり発表しました。

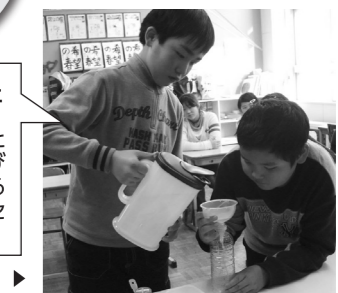
◀40条のカードから8つ~4つ厳選 むずかしい!

劇中グループでの活動を通して、子どもの人権について考えることができた。非常にためになりました。教師としてきちんと知っておかなくてはいけない。いかに子どもの人権を侵害してしまう恐れがあることはきちんと認識しておかなくてはいけない。と思った。(教員養成課程 3年男子)

レスポンスカードから

◆軽米町立笹渡小学校 出前講座・募金贈呈

2014年1月28日、ユニセフ支援活動のひとつである「水と衛生」をテーマに、子どもを守る安全な水について学びました。全校児童35人、毎年ユニセフ募金に取り組んでいる笹渡小学校は4月、137年の歴史を閉じました。長い間ユニセフを応援していただきありがとうございます。



▶脱水症から子どもの命を守るよ! 経口補水塩づくり

◆ハレルヤ保育園 (滝沢市葉の木沢山)

2014年5月21日、年長(5歳児)20名が「なぜユニセフ募金なの?」のアニメのDVDを見たり、手洗いダンスで「てをあらう」ことが病気になるの防止にたいがいなことを知りました。

2013年度 ユニセフ募金

(2013年1月1日~2013年12月31日)

6,312,905円 (一般募金:シリア緊急募金・フィリピン台風含)
岩手県ユニセフ協会にお寄せいただいた募金です。